

R2 矩計図の書き方

- ・矩計図は丸暗記して試験も同じものを書く。
- ・書く手順は、次の(1)～(4)である。
- ・赤字はコメント追記の内容である。

(1) 寸法線

① 基準線を画く

右から8マスの位置に基準線を描く。

下から7マスの水平位置に1FLを描く。

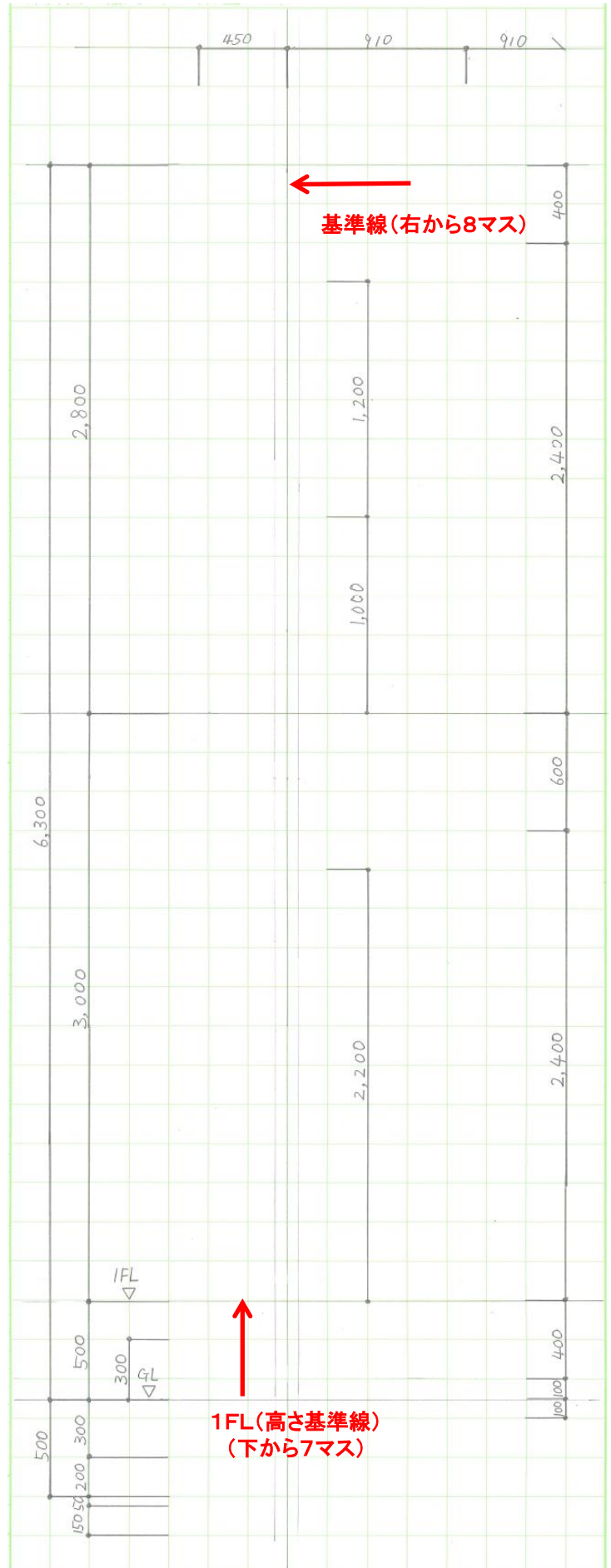
② 寸法線・寸法を描く

1FLの基準線から各寸法を描く。

この寸法は、課題に特に条件が無い場合、全て同じとなることから、右図の寸法が基本となる。

この基本を暗記して、何も考えずに、右の各寸法を描く。

ここまでが、「(1)寸法線」であるが、この矩計図は、事前に決めたものを試験時に書くだけであるので、可能な限り試験前に学習しておきたい。



(2) 基本外線図

① 基礎を描く

基礎は、下から割栗石(H150mm)、捨てコンクリート(H50mm)、基礎コンクリート(高さH200mm、基礎幅150mm)である。割栗石と捨てコンクリートの幅は同じなので、一緒に書いて、その上に基礎コンクリートを右図の通り記載する。

基礎コンクリートの高さは、GL+300mmである。

② 外壁・サッシ枠を描く

外壁部の厚さは、200mmとする。

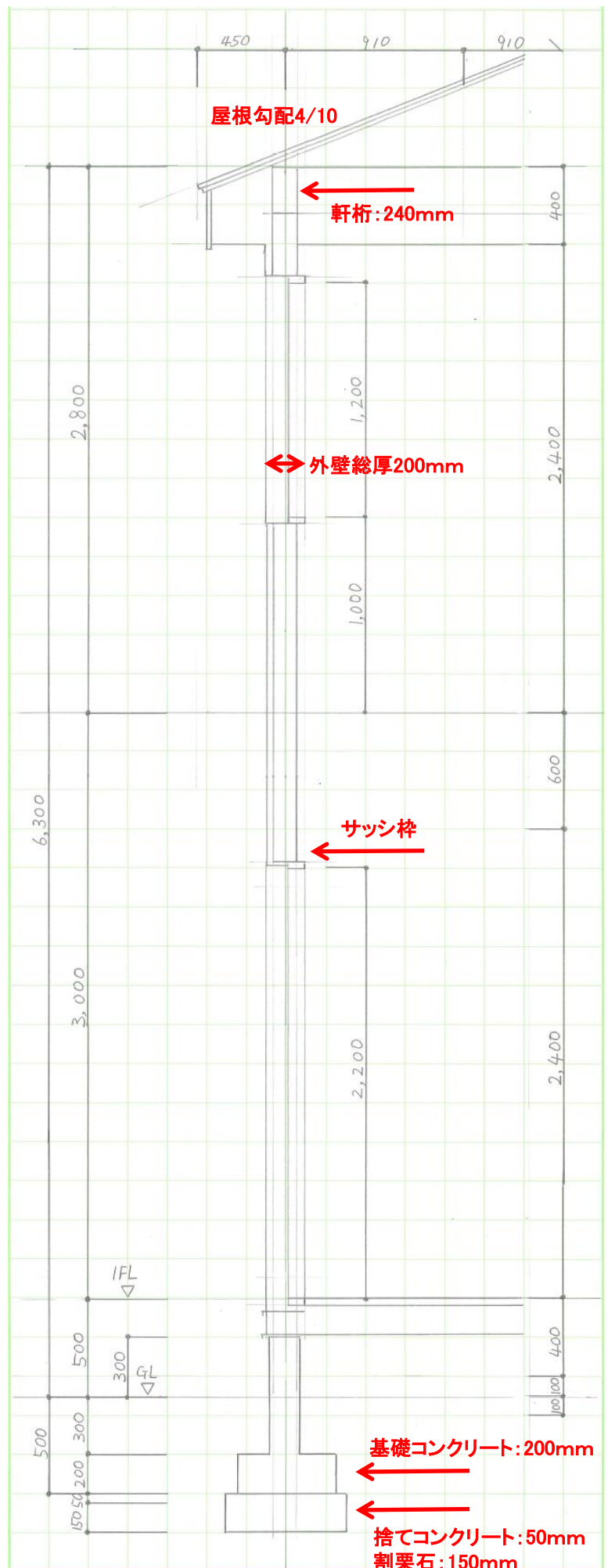
サッシ枠は、寸法に合わせて上下に水切りを記載する。この段階では、窓の記載をしない。

③ 屋根勾配を描く

屋根の勾配は、4/10とする。

軒先は、基準線から450mmの位置とする。

軒桁の高さは、H240mmとする。



(3) 図面完成

① 1階床部を描く

1階床部は、床らから下に向かってフローリング、下地合板、根太、大引となる。

② 2階床部を描く

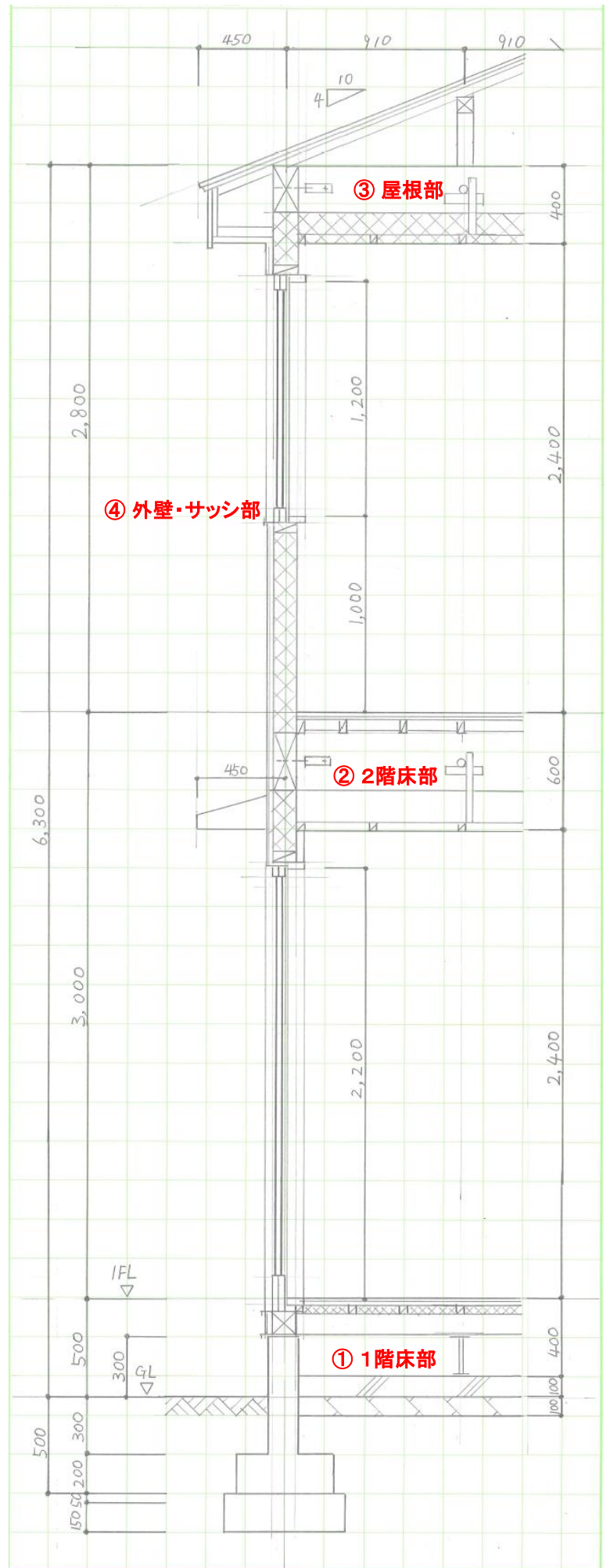
2階床部は、床らから下に向かってフローリング、下地合板、根太、2階床梁となる。更に、1階天井部が、根太、石こうボード、天井ビニルクロスとなる。

③ 屋根部を描く

屋根部は、屋根から下に向かって屋根化粧スレート葺、アスファルトルーフィング、耐水合板、垂木、母屋・小屋梁となる。更に、2階天井部が、断熱材ロックウール、防湿フィルム、根太、石こうボード、天井ビニルクロスとなる。

④ 外壁・サッシ部を描く

外壁は(4)の通り、サッシ部は引違いアルミサッシとなる。



(4) 名称等記載

① 名称の記載

右図の通り、各名称等を記載する。

この外壁は、右図の通り、「乾式」と「湿式」により、どちらかを書くこととなる。試験では、外壁について、乾式工法または湿式工法での指定が入る可能性がある。従って、ここは、2種類を書けるように暗記する。

② 乾式工法の外壁

- ・窯業系サイディング(ア)14
- ・通気タテ胴縁20×45@455
- ・透湿防水シート

③ 湿式工法の外壁

- ・吹付タイル
- ・ラスモルタル(ア)20

